

中島邦雄* 琉球植物覚書(三)

Kunio NAKAJIMA*: Notes on the flora from Ryukyu (3)

15). シロバナツヤスマレ (新品種) 久米島の生物に造詣の深い喜久里教達氏は1967年3月27日, 同島北部, 仲里村比根定北部の畦でツヤスマレの白花品を採られた。多くの品種があるタチツボスマレの一品, ツヤスマレの白花品は初見であるので, 学名を氏に献名し, 和名をシロバナツヤスマレとしたい。

琉球のツヤスマレには長い間リュウキュウタチツボスマレ *V. lutchuensis* NAKAI が用いられ, その和名は今日も用いられている。承知の如くツヤスマレはタチツボスマレの海岸性で, 葉に光沢があるだけでなく, 質もやや厚い。また幾分か葉も小さい。沖縄, 久米, 石垣, 西表島の海岸から丘陵地の古生層か石灰岩のある赤土地帯にしばしばみられる。開花期は(12~)2~4月。一果の種子数10~20粒。

16). ケリュウキュウコスミレ (新品種) 側弁有毛のリュウキュウコスミレをいう。筆者は1968年5月1日伊豆味(国頭:本部)で初めて見出した。本品種の普通品(淡紫色)より白色に近い淡色花のものを, 1969年2月12日伊江島より得た。淡色花のものは沖縄本島でしばしば見られるが, 伊江島では基種(リュウキュウコスミレ, 側弁無毛)に混じて生えており, その中間色が見出せなかった。これをアワイロリュウキュウコスミレ(新品種)としたい。

17). ミドリリュウキュウコスミレ (新品種) 国頭西海岸の景勝地万座毛(マンザモウ)は興味あるオキナワスマレ *V. utchinensis* KOIDZ. やサクヤアカササゲ *Vigna vexillata* (L.) A. RICH. (植研 43:247, 1968) などがある。沢岬安喜氏は1968年2月万座毛に近い原野より緑花品のリュウキュウコスミレを採集し, 標本の閲覧を許された。花は普通品よりやや小さく, 色は草色に近い。基種の花色異品には純白, 白地に紫条が入り良い芳香を放つものがある。

18). コリュウキュウコスミレ (新品種) 淡紫色を開く基種の花径に2通りあることを知った。その一つはノジスマレのように大きいもの, それにヒメスマレ的なものである。1968年2月27日, 読谷村座喜味(ヨミタンソン, ザキミ)の路傍で得たものは花径がヒメスマレ的であり, 側弁は無毛であった。当地では5月になる前から気候の関係で花径が小さくなるが, ここに報告するコリュウキュウコスミレ(新称)は栽培しても花径は変わらない。また, 全島で普通品と混じてよく見られる。固定した一品と考えている。

リュウキュウコスミレは植物学雑誌(42:560, 1928)に中井によって *V. pseudojaponica* NAKAI と発表され, 以後多くの人は *V. yedoensis* MAKINO と解釈されてきた。最近 *Viola* 属研究者の一人, 浜栄助氏はケナシノジスマレに近いことを研究され, 遠か

らずその位置が明確になろうが、それまで筆者は *V. pseudojaponica* NAKAI を用いておきたい。

19). ヤエヤマスミレ(Fig. 6 advertion bud on roots, Fig. 7), ヤクシマスミレ(Fig. 8), アマミスミレ *V. amamiana* HATUSIMA (Fig. 9)

日本南部(屋久島以南), 奄美大島(湯湾岳), 徳之島(井之川岳), 沖縄(国頭), 石垣島および西表島におよぶ山地や溪岸の陰湿地に小型な多年草で, 白い花を咲かせる独特のヤクシマスミレ, アマミスミレ, イシガキスミレ, ヤエヤマスミレの各種のスミレが自生する。

筆者はここ数年来琉球列島のスミレ類を調査しているが, 最近上記のスミレに関連性を見出すことができた。昨年春, ヤエヤマスミレの花期にその自生地を調査する機会に恵まれ, 幸いにも他種のスミレと豊富な材料のもとに比較することができた。それらについて



Fig. 6 根部の不定芽 (ヤエヤマスミレ *Viola tashiroi*)

の詳しい報告は他日に改めたいが、ヤエヤマスミレの西表島における主な産地として、仲間川、クイラ川、仲良川、浦内川などの上流（溪岸）の陰湿な場所に本種単独か他の植物や苔類と生育している。一株の広がりが 10cm 余、根の長さ 15cm 以上となるものもあって、根から不定芽（発苗）を出し、これが古くなると地下茎と見違える（国頭産のヤクシマスミレにしても同じ）。また、葉や花の柄の表面に乳頭状小突起か腺状軟毛（ヤクシマスミレ、アマミスミレ、イシガキスミレにも共通）があり、帯紫色（柄）もあるが、葉は紫色を帯びない。葉の表面に微毛があるもの、少毛、全く無毛のものまであり、また夏季幾分脱落するものもある。裏面は平滑、淡色。浦内川では通称軍艦岩（稲葉の上）から上流へ行くにしたがって、鈍流、海拔も高くなり山地の陰湿地に類似する場所となる。その間、特に葉形の興味ある変化が見られた。その主なタイプは菱形→卵状菱形→卵状三角形→広三角形→心形（後述のイリオモテスミレ）となり、基脚もクサビ、ほぼ切形、浅心形、縁も波状を帯ぶものまでである。

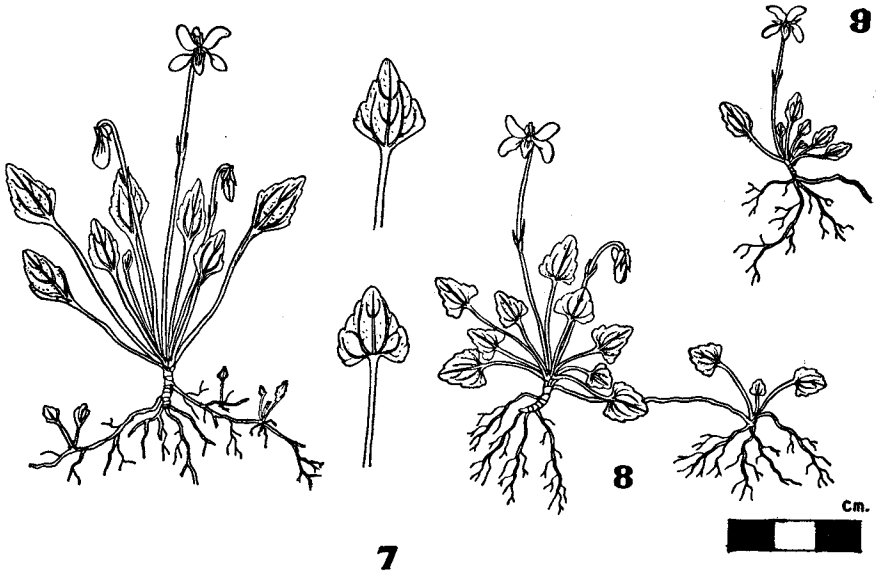


Fig. 7 ヤエヤマスミレ *Viola tashiroi*, Fig. 8 ヤクシマスミレ *V. tashiroi* ssp. *iwagawai*, Fig. 9 アマミスミレ *V. amamiana*.

屋久島、奄美などのヤクシマスミレは下（唇）弁が他の弁より著しく短いのに比べて、沖縄（国頭）産の下弁はさほど短くなく、ヤエヤマスミレの花の大きい比率からいって、より南方という地方的変異としてみられる。距の内部にも微毛のあることは他のものと共通するが、ヤクシマスミレの下弁表面には微毛がみられず、縁に腺状軟毛が散在し、萼にもヤエヤマスミレより少ないが下弁の縁と近い毛がみられる。

ヤエヤマスミレの産地は今日まで八重山群島西表島のみ産するとされているが、高嶺英言「八重山群島植物誌(目録)」p. 72 (1952), 園原咲也:他「沖縄植物誌(目録)」p. 105 (1952), 初島:天野「沖縄植物目録」p. 69 (1959), 「同改訂版」p. 76 (1967)にその分布が石垣島におよぶことが記されている。しかし、筆者は石垣島から得た多くの材料を基に調べた結果、同島のものはイシガキスミレ(新称)とすることにした。ヤエヤマスミレはやはり西表島特産の種という実感を強く感じた次第である。

ここで植物地理学上からいっても、屋久島、奄美、沖縄(国頭)、石垣、西表島に分布する他の共通種も少なくなく、またそれらの形態からみてもヤクシマスミレ、アマミスミレ、イシガキスミレはヤエヤマスミレに関連が深いとの見解に達した。少し早い感もあろうがヤエヤマスミレを基種とし、ヤクシマスミレをその亜種とし、イシガキスミレをヤエヤマスミレの変種とした。ヤエヤマスミレは八重山群島西表島特産種。ヤクシマスミレは屋久島(北限)、奄美大島(湯湾岳)、徳之島(井之川岳)、沖縄(国頭:南限)。アマミスミレは奄美大島住用川より採集せられたものである。図7, 8, 9, 10, 11の美しい絵はスミレ属の研究者、浜菜助氏が筆者のためにわざわざ生品から描いて下さった。

20). イリオモテスミレ (新品種, Fig. 10)

ヤエヤマスミレの葉が心形か広心形の異品で、他は基種と変らない。筆者が1968年4月22日に西表島浦内川上流の営林署山小屋から古見岳よりで見出したもので、花や果実がみられ基種と容易に比較できた。沢岬安喜氏が得た材料は花も果実もなく、また詳細な産地も明らかでなかったが本品種であることに疑いない。よって発見者に献名(学名を)し、和名に産地西表島を記念してイリオモテスミレ(新称)としておきたい。葉は最大、長さ1.7cm、幅2.4cm、柄5.5cm、鈍頭か円頭、低鋸歯4~6個。花期は基種と同じ。また、筆者が石垣島荒川で見出したものも同一品と解釈している。

21). イシガキスミレ (新変種, Fig. 11)

1968年4月25日、八重山群島石垣島於茂登岳に源を発する名蔵川上流より、ヤエヤマスミレやヤクシマスミレと異なる一種のスミレを得た。葉は広三角形か卵状三角形、鈍頭、低鋸歯3~5個、基脚は円状切形か浅心形、長さ6~10mm、幅6~10mm。葉柄、長さ5~25mm。花は白色、唇弁(距内部にも)に微毛(ヤエヤマスミレと同じ)、花径はヤエヤマスミレとヤクシマスミレの中間で13~17mm、花柄は4~7cm。萼の縁にはヤエヤマスミレのように腺状毛はほとんどない。他は基種よりやや小さいが変りはない。形態や地理的にヤクシマスミレよりヤエヤマスミレに近いところからヤエヤマスミレの変種としたい。学名はその時の同行者、琉球農業試験場八重山支場の平良朝正氏に献名し、イシガキスミレ(新称)とした。

22). シマジリスミレ (新課題種)

目下研究中の種である。1967年の冬、筆者は沖縄本島(島尻郡)南部の与座岳(alt. 約150m)から有茎のオキナワスミレに比べ葉や托葉などが大型の一見変わったスミレを得た。葉は殆んど光沢を欠き、やや薄質、明緑(草)色で冬期帯紫色となり、基脚は心形か巻く。花や距は小さく、帯白色か淡青紫色、側弁基部に少毛があり、オキナワスミレのよう

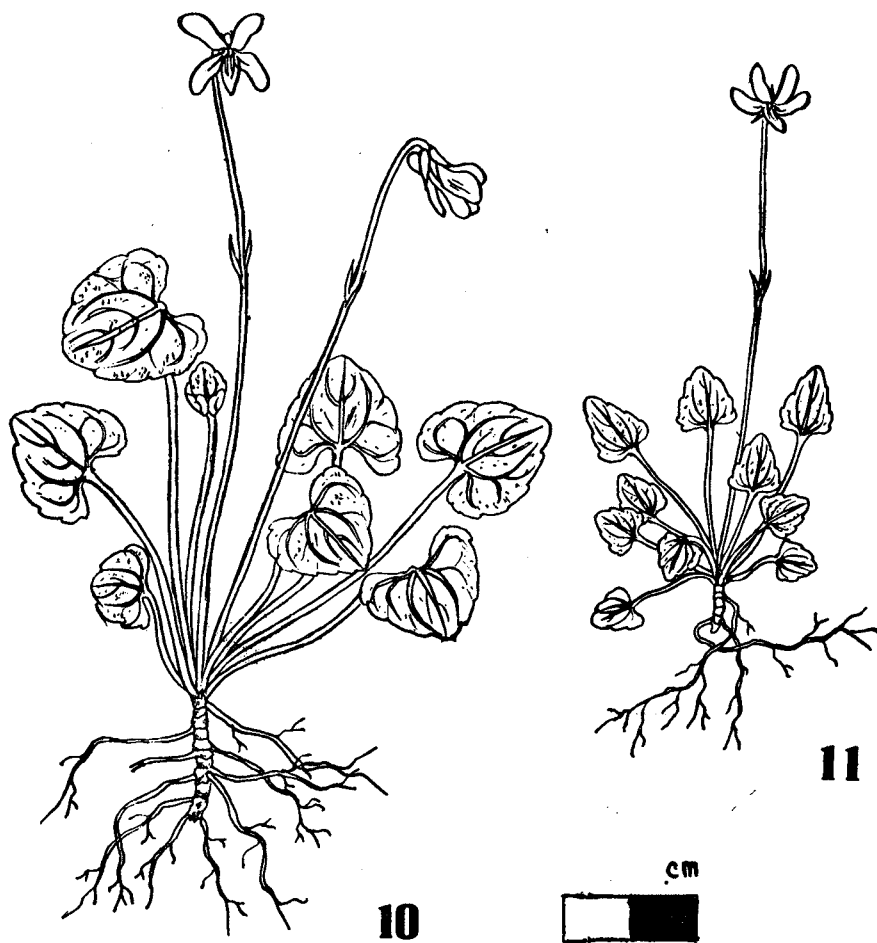


Fig. 10 イリオモテスミレ (新称) *Viola tashiroi* form. *takushii*

Fig. 11 イシガキスミレ (新称) *V. tashiroi* var. *tairae*

に発達しない。萼の附属体に歯牙がある。果実は卵状隋円形。一果の種子数10~20個。花や果実の分った今日、オキナワスミレや台湾のものにみられないものと分った。また、浜栄助氏に指摘され気付いたが、花柱上部がタチツボスミレ的で頭部に肉質状の少毛があり、アイヌタチツボスミレやエゾノタチツボスミレに近縁であることが分った。南方系にこのような性質の種類があつてよいものか、もう少し精検を要したい。産地については新納義馬助教授(琉球大学教養学部)からご教示いただいたが、与座岳においては同氏が1967年夏調査の際花も果実もないものを見てオキナワスミレとされていたものである。ま

た、戦前、沖縄植物学界の長老北農植物園標本館の園原咲也先生も東風平村富盛の八重瀬岳から本種に似たスマレを得ておられる。

15). *Viola grypceras* A. GRAY form. *lucida* (NAKAI) F. MAEKAWA

Viola lutchuensis NAKAI, Bot. Mag. Tokyo 36: 35 (1922); SONOHARA, S. et al. Fl. Okinawa 105 (1952); TAKAMINE, E. Fl. Yaeyama-guntō 72 (1952).
Syn. nov. (Jap. nom. Ryukyu-tachitsubosumire.)

Nom. Nipp. Tsuya-sumire

form. *Kikuzatoi* NAKAJIMA, form. nov.

A forma lucida recedit flores albi.

Nom. Nipp. Shirobana-tsuyasumire (n. n.)

Hab. Okinawa: Prov. Kume-jima (Is.), on sunny grassy field in northern Hiyajyo, Nakazato. (Mar. 27, 1967, KIKUZATO!—typus in Herb. KIKUZATO, Kume-jima).

Dist.: Endemic—the species: Japan (Hokkaido to Okinawa Isls.) and Korea.

16). *Viola pseudo-japonica* NAKAI form. *pubescens* NAKAJIMA, form. nov.

Flores barbatus. Cetera ut in typo.

Nom. Nipp. Ke-ryukyukosumire. (n. n.)

Hab. Okinawa: Prov. Kunigami, wayside of Meiji-yama. (Nov. 26 et Dec. 5, 1968, NAKAJIMA!—typus in MEBG), Izumi (May 1, 1968, NAKAJIMA!), Yofuke, Nago (Feb. 7, 1969, NAKAJIMA! Prov. Ie-jima, (Is.) Gusuku-yama (mt.) (Feb. 12, 1969, NAKAJIMA!).

form. *pallescens* NAKAJIMA, form. nov.

Forma pubescens recedit flores pallide ionanthus.

Nom. Nipp. Awairo-ryukyukosumire. (n. n.)

Hab. Okinawa: Prov. Ie-jima (Is.), wayside of Gusuku-yama (mt.) (Feb. 12, 1969, NAKAJIMA!—type in MEBG).

17). form. *viridescens* NAKAJIMA, form. nov.

A typo differt flores viridescens.

Nom. Nipp. Midori-ryukyukosumire. (n. n.)

Hab. Okinawa: Prov. Kunigami, Onna. (Feb. ?, 1968<fl.>, A. TAKUSHI!—typus in Herb. TAKUSHI).

Mr. E. HAMA said, *V. pseudo-japonica* is one form of *V. yedoensis* MAKINO

18). form. *micrantha* NAKAJIMA, form. nov.

Flores minor. Cetera ut in typo.

Nom. Nipp. Ko-ryukyu-kosumire (n. n.)

Hab. Okinawa: Prov. Nakagami, wayside of Zakimi, Yomitan-son. (Feb. 29, 1968, NAKAJIMA!—typus in MEBG)

Distr. : Endemic.—the species : Ryukyus.

19). *Viola tashiroi* MAKINO, Bot. Mag. Tokyo 21 : 57 (1907).

Nom. Nipp. Yaeyama-sumire (Y. TASHIRO)

Hab. Ryukyu (Yaeyama Isls.) : Prov. Iriomote (Is.), on the mossy rock fringing the stream the Kuira, Nakara, Urauchi and Nakama-gawa (river).

Distr. : Endemic.

Viola tashiroi MAKINO ssp. *iwagawai* (MAKINO) NAKAJIMA, comb. et stat. nov.

V. iwagawai MAKINO, Bot. Mag. Tokyo 26 : 158 (1912).

Nom. Nipp. Yakushima-sumire (T. MAKINO).

Hab. Japan (southern) : Yaku-shima (Is.), Ryukyus : Prov. Amami ; Ohshima et Tokuno-shima (Is.), Okinawa : Prov. Kunigami.

Distr. Endemic.

20). *Viola tashiroi* MAKINO form. *takushii* NAKAJIMA, form. nov.

A typico differt folia cordata vel lato-cordata.

Nom. Nipp. Iriomote-sumire. (n. n.)

Hab. Ryukyu (Yaeyama Isls.) : Prov. Iriomote (Is.), on the mossy rock fringing the stream of Urauchi-river about 20km the upper stream from Inaba. (Apr. 22, 1968, NAKAJIMA!—typus in MEBG, co-typus in Herb. E. HAMA, Nagano-pref., Nippon) ; Prov. Ishigaki (Is.), Arakawa (river) (Apr. 25, 1968, NAKAJIMA!).

21). *Viola tashiroi* MAKINO var. *tairae* NAKAJIMA, var. nov.

A typo differt folia (none violascens) euro-deltoides vel ovato-deltoides 6~10 mm longa 6~10mm lata spura pubescens infra glabra basi truncata, orbiculato-truncata vel obtuso-cordata, crenata 3~5, petiolis gracilibus 5~25mm longis. Flores albi, flospatens ca. 13-17mm in diametro, pedunculis ad 4~7 cm longis, bracteolis 2.5~3.5mm longis 0.5mm latis, stipulis mammulosus vel oliga nollis ad petiolum vel pedunculum parse adnatis. Sepala 4~5 mm longa 0.5~1.0mm lata ciliata ; petalis, lateralia vel labiosus supris pubescens 7~10mm longis 3~4 mm latis calcari infra pubescens abbreviato 1.0~1.5mm longo 1 mm lato. Style 1.0~1.5mm longa. Capsula 2~3 mm longa 1.5~2.5mm lata, glabra.

Nom. Nipp. Ishigaki-sumire. (n. n.),

Hab. Ryukyu, Yaeyama : Prov. Ishigaki (Is.), on the mossy field fringing the stream of Nakura-gawa (river) (Apr. 25, 1968, NAKAJIMA!—typus in MEBG. Co-typus in Herb. E. HAMA, Nagano-pref.)

Distr. : Endemic.—the species : Iriomote (Is.), Ryukyu.

22). *Viola okinawensis* NAKAJIMA

Nom. Nipp. Shimajiri-sumire. (n. n.)

Hab. Okinawa : Prov. Shimajiri ; Mt. Yoza-dake (summer?), 1967, Y. NIIRO (steril), Feb. et Oct. 1968, NAKAJIMA! (fl. et fr.), Mt. Yaezu-dake (S. SONOHARA! anno et al. ?)

Distr. : Endemic.

This violet found on rare occasion to cliff in the evergreen broad leaved tree forest of Mt. Yoza-dake et Yaezu-dake in Simajiri (S. Okinawa). This species very interest to *V. utchinensis* KOIDZUMI (Sect. Serpentes) differt whole plant major, flower small and few pubescens, and the upper style very near to *V. sacchalinensis* BOISSIEU or *V. acuminata* LEDEBOUR.
